

2022 年 07 月 27 日（水）

「水曜サロン with 赤堀会長」第 3 期 第 1 回（通算第 31 回）

GIGA スクールの Next Stage へ

中川 一史 氏（放送大学 教授）

1. 内容

- ・ GIGA スクールの Next Stage への提案
何を再考するのか 「子どもに委ねる」

2. 所感

中川先生、ありがとうございました。3 つ衝撃を受けました。一つ目は冒頭の 19 年前の衝撃の授業映像、先生の体を使ったプロジェクションマッピングのような仕掛けによる人体の授業でした。子どもたちからは大歓声が上がっていました。

その後に、中川先生から問いかけがありました。さて 19 年経った今、一人一台 GIGA の時代になりましたが、GIGA 端末を使うこと自体が目的になっていないか？ いつになったら新しい社会に求められる子どもの資質能力の育成の為の授業改善に向かうのか？ そこには、時間、空間、主体の壁があり、今残っているのは主体の壁。そこで、本日、参加者と再考したいことは「子どもに委ねる」について。

すぐに 2 つめの衝撃「端末出して問題」！ 一斉に端末を開いて、学習ツールを使って、終了したら一斉に閉じる。95%の学校は、このような使い方だといいます。我々社会人は端末を自由に使っている。本日の中川先生のお話を、紙にメモ取っている人もいれば、端末にメモを取っている人もいます。子どもたちはいつ体験するのか！

これまで水曜サロンで紹介されてきた授業実践を思い出しました。ことばを調べるのに、ネットで調べる生徒、紙の辞書で調べる生徒、隣の友達に聞く生徒。音楽の練習の際、アプリを使う児童、3 人で端末のビデオを使う児童、紙に音符を書く児童。教室の中は、まさに「子どもに委ねる」でした。

質疑に移って、3 つめの衝撃。グループで話し合う時に、子供たちが自ら段取りして、休んでいる子を遠隔ツールで呼び出して、端末を通して一緒に話し合いをしている！

質疑では、次のような質問も。「教えることが好きで先生になった、寂しい、生きがいなのに」と言われると返答に困るがどうすればいいのか？ 中川先生の応答は、従来のやり方が必要な場面はあるし、机間指導も教師の醍醐味ではないでしょうか。さあ、NEXT GIGA へ行きましょう。

以上